



NHK 海外向け放送番組に出演

PROGRAM NOTE

2024 年 3 月

HCJB 日本語放送60年の歩み(3)

NHK 中央研究所 (1967~68年)

NHK 中央研究所でアナウンスの研修を受ける道がひらけたのは、在エクアドル日本大使館の堀大使のおかげでした。その頃はまだ「アンデスの声」日本語放送を開始したばかりで、南米向けに生放送で毎日30分の番組をなんとか担当しながら夢中の毎日でした。そんなある日、大使公邸に呼ばれ食事をいただいた帰り際に大使から「何か困っていることはないかね」ときかれ「私は番組制作ならともかく、自分で放送するとは思っていませんでしたので戸惑っているところです。NHK かどこかで正式に放送研修を受けらる道はないでしょうか」とたずねてみたところ、大使は即座に「知人がいるのできいてみてあげるよ」と即座に返事をいただき話はとんとん拍子にすすんだのです。

間もなく一時帰国した私のところに NHK 中央研究所から連絡があり、折よく沖縄が本土返還される直前で、NHK 沖縄局のスタッフになる職員が来日しているの、本来、外国からは受けられない規則だが、沖縄も南米エクアドルも今は部外者だということでその仲間に入れてもらって放送技能コースを受講させてもらうことになったのです。

研修期間中にラジオのアナウンスからテレビの番組取材まで現役のアナウンサーの方たちが入れ替わり立ち替わり講師として来てくださいました。ある日、当時の人気番組のホストをしてられるアナウンサーの方の講義がありました。「原稿の読み方」の実習でしたが、「尾崎さんの話し方にはすこし癖がありますね」と注意されてしまいました、私が牧師であることは見破られてしまいました。



海外向け放送の番組制作の実習

講師のひとりに VOA (アメリカの声) のワシントン局に駐在していた方がおられたので、外国生活で子供たちは日本語が疎かになるのが悩みになっていますと相談したところ、「いやいや子供の能力は凄いですよ。一時的に忘れたようでもちゃんと残っています。異文化を吸収することは、将来きっと役に立つことは間違いありません」とご自分の体験から貴重な励ましをいただき、子供たちの将来に夢を抱くことができました。

テレビの取材番組の研修で「火事」の現場の取材があった時には、夢中になって、ほとんどが燃えている現場ばかりを夢中になって撮影してしまいました。取材後の反省会で「燃える」ことに気をとられ過ぎて全体的な『火事』の全体像を忘れてはならないこと。また、空港で迎える賓客の取材の時にも、本人ばかり追うのではなく、遠景、近景、クローズアップ、出迎えの人などもおさえることなど多くを学ばされました。



NHK テレビスタジオ見学
坂本龍馬と記念撮影

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
3月 2日	アメリカ大陸新発見 (24回) ユタ州・ネバダ州	3月 3日	聖書遊覧バス: 旧約聖書 詩篇 36 篇
3月 9日	女ばかり南米大陸に行く: アルゼンチン (3)	3月10日	聖書遊覧バス: 旧約聖書 詩篇 37 篇
3月16日	マリンバの調べ	3月17日	リスナーからの「お便り交換の時間」
3月23日	アメリカ大陸新発見 (25) アリゾナ州	3月24日	聖書遊覧バス: 棕櫚の聖日
3月30日	女ばかり南米大陸に行く: いよいよパタゴニアへ	3月31日	聖書遊覧バス: イースター(復活節)

ある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3 形式)



放送時間: 日本時間 午前 7 時半~8 時 15.410kHz (再放送) 午後 8 時~8 時 30 分 15.565kHz
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)

*受信報告書をメールで送る場合: hcjbjapan.office@gmail.com

